

# たぐすい

TAKUSUI  
No. 665

3

March, 2012

発行 財兵庫県水産振興基金

兵庫の漁業人のための情報誌



イカナゴ漁に沸く明石海峡周辺

## NEWS

### 近畿・中国・四国地区漁青連ブロック資源管理研修会

～「ガザミふやそう会」から持続可能な資源管理型漁業を考える～

### “豊かな海” 実現に向けて兵庫から意見発表

～ 国の現地ヒアリング～

## Report

### 小学生が淡路市内のノリ生産現場を見学

## 「近畿・中国・四国地区漁青連ブロック資源管理研修会」開催 ～持続可能な資源管理を考える～

兵庫県で始まり、今や広域に広がった漁業者の自主的資源回復活動である「ガザミふやそう会」。

「近畿・中国・四国地区漁青連ブロック資源管理研修会」が、2月10日（金）に神戸市内に関係者約90名が集まり開催され、今年で25年を迎える「ガザミふやそう会」の過去の活動を振り返りつつ、継続可能な資源管理についてグループ討論などの研修を行いました。

開催に当たり全国漁青連 角 好美会長から「今日の研修の中で今一度資源管理型漁業を考える機会にしてほしい」と挨拶。続いて、「ガザミふやそう会」の設立に尽力されたJF兵庫漁連 突々 淳参事から「ガザミふやそう会 25年の歩み」と題し、設立当初の映像資料を基に講演がありました。突々参事は「この会は人の活動であった」とし、「自然の力を借りて、自分たちで出来る最大限のことをするという方針の中、精神論だけでない関係者の“納得性”があったため活動が広がったのではないか」、「漁業者や系統団体、行政がそれぞれの役割で



皆が参加し、“ヒーロー”は要らない、1人ひとりが活動の主役であった。」と活動内容を振り返り、今後は資源管理に加え魚価対策として水産物流通を課題に取り組みたいと締めくくられました。また、「沿岸漁業の総合的な管理の考え方」と題し、(独)水産総合研究センター中央研究所 牧野 光琢氏による基調講演が行われ、資源管理から漁業生産、流通、消費までの流れを“水産システム”と位置づけ、“管理ツール・ボックス”という手法で取組みを整理し、今後の内容の検討や、比較に役立てるというもので、参加者からは新たな考え方として良い刺激になっていました。



25年の歩みを振り返る突々参事



牧野氏から新たな管理手法が紹介されました

同研修会後半のパネルディスカッションでは、県水産技術センター 反田 實所長をコーディネーターに、兵庫県漁青連 大西 正起副会長らがパネリストに加わり行われ、大西副会長からは「(ガザミの) 抱卵個体は放流するのは“当たり前”という意識になっている。今後は販売

短時間で様々な意見がまとめられ発表されました

に力を入れ、ブランド化や東京方面への出荷システム構築に力を注ぐとともに、一般会員へのさらなるPRも行っていく」と発表、

(独)水産総合技術センター 小畑 泰弘氏は「ガザミふやそう会」について「合理的で素晴らしい活動。生態を利用した上での保護活動という点に大きな意義がある。」と意見を述べられました。続く参加者全員によるグループ討論では、テーブル毎に分かれた参加者の皆さんは、盛んに意見交換を行い、それぞれの代表から討論内容が発表されました。

漁業者が稚ガニの中間育成を放流しつつ、抱卵ガザミを漁獲する矛盾を感じ“何とかしたい”という想いで始められた「ガザミふやそう会」。行政、系統団体、一般市民等を巻き込み、多くの人に支えられて、開始から25年経つ今でもその心意気は息づいていて、今後、さらなる飛躍が期待されます。





# 自動膨張式ライフジャケットの 作動を体験!

～JF仮屋にて“命を守る運動”「海上安全講習会」～

県下各JFにおいて行われている“命を守る運動”「海上安全講習会」が、2月15日(水)に淡路市のJF仮屋 会議室において開催され、漁業者・関係者ら約90名が参加しました。この講習会は、今までの安全講習に加えて、参加者全員が自らのライフジャケットの使用方法やメンテナンスの体験をするため企画されました。

講義は国土交通省神戸運輸監理部 筒井 宣利課長から、映像により色々なライフジャケットの構造、取り扱い等について説明がありました。その後、ライフジャケットを着用した漁連職員が巡回する際には、漁業者が実物を触ったり、着用したりする場面も。漁業者からは「薄くて軽い」といった感想や「いくらするのか?」、「何年くらい使用できるのか」といった質問が多く出て、以前のものより薄くて軽いライフジャケットに皆さんの関心は高かったようです。

次に自動膨張式ライフジャケットを水槽に浸けて膨らませたり、漁業者が自分のライフジャケットを着用し、手で膨張させたりする体験を行いました。「思ったより早く膨らむ」と膨張の際の空気圧による勢いに驚いた様子で語り、「首の周りが圧迫される感じ」という感想には筒井課長より「首を持ち上げることで、呼吸を確保している」との説明に納得された様子でした。最後に、先ほど膨張させたライフジャケットのボンベ等の消耗品を入れ替えるメンテナンスを行いました。実際に使用したボンベに大きな錆が発生したものがあり、改めて“定期的な点検”が必要であることが確認できました。

なお、漁連が開発中の浮力体の入ったカップについて「浮遊姿勢もよく、近くフィールドテストを実施し、さらに改良を進める予定」としています。

膨張時の音は  
びっくりします



正しい着用方法を確認



ボンベは錆びます  
今一度、確認を!



講義に熱が入る  
筒井課長



## “命を守る運動”「海上安全講習会」

**主催** 漁業協同組合・JF兵庫漁連・共水連兵庫県事務所・兵庫県内海漁船保険組合  
(公財)ひょうご豊かな海づくり協会・(財)兵庫県水産振興基金

**協力** 神戸運輸監理部 各海区の海上保安部 関西小型船安全協会 他

※開催希望等のお問い合わせはJF兵庫漁連 指導部(代表)まで  
TEL: 078-940-8013

ぜひ開催を!

## “豊かな海” 実現に向けて意見発表 ～国の現地ヒアリングで兵庫から2名が意見発表～

JF兵庫漁連



中央環境審議会 瀬戸内海部会企画専門部会では、“豊かな海”を実現するため、瀬戸内海における今後のあるべき姿や、環境保全・再生のあり方について意見を求める「現地ヒアリング（東部海域）」を、2月23日（木）に大阪市内で開催しました。ヒアリングでは、発表者8名がそれぞれ自らの活動・体験を基にした意見表明を行い、兵庫県からは県水産技術センター 反田 實所長と、JF

明石浦 戎本 裕明組合長が発表し、同部会の委員らに豊かな瀬戸内海を取り戻すために必要な施策等を訴えました。

反田所長は漁獲量と栄養塩の関係や、漁業者の栄養塩供給の取組み等を紹介し、「栄養塩管理に向けた実証研究事業の実施」や「海底ゴミの処分システムの確立」等を提案しました。また、戎本組合長からは、自然の豊かな栄養塩や砂が山から川へ、そして海へと円滑に流れるための仕組みづくりと、それが実現するまでの間の対策として、下水処理施設における規制範囲内での窒素排出量の緩和等の実施を求めました。

このヒアリングは、2月に北九州市、高松市、大阪市と3回の開催。環境省では今後、他に寄せられた意見等と共に検討し、この夏には「目指すべき将来像と環境保全・再生の在り方」として答申を行いたいとしています。

中央環境審議会 瀬戸内海部会企画専門部会では、“豊かな海”を実現するため、瀬戸内海における今後のあるべき姿や、環境保全・再生のあり方について意見を求める「現地ヒアリング（東部海域）」を、2月23日（木）に大阪市内で開催しました。ヒアリングでは、発表者8名がそれぞれ自らの活動・体験を基にした意見表明を行い、兵庫県からは県水産技術センター 反田 實所長と、JF

### 反田所長の発表

#### 「播磨灘の栄養塩環境と兵庫県漁業の実態及び窒素供給の取組み事例」

反田所長は、播磨灘の現状について「透明度が上昇し、透明度の平均は戦前の時期と変わらない」、「窒素不足によるノリの色落ちの頻発」と解説した上で、栄養塩濃度の長期的低下はノリ養殖だけでなく、漁業基礎生産力の低下を招いているのでは？と述べられました。次に、兵庫の漁業関係者による“かいぼり（池干し）”や、海底耕耘、下水道管理運転について紹介し、4つの提案と「大阪湾を他の瀬戸内海と切り離してよいのか」、「富栄養化対策における制度的な問題と地形的問題は分けて考えた方がよいのでは？」との意見を示されました。

#### 《提案》

- ① 栄養塩管理に向けた灘・湾規模の実証研究事業の実施  
実験的营养塩供給と詳細モニタリングの必要
- ② 陸域からの砂の供給、沿岸域の底質変化に関する調査研究の実施  
情報が少ない部分であるが、二枚貝類の生息場所評価につながり、海岸利用や景観の面からも必要
- ③ 環境省・国交省・農水省の連携による瀬戸内海再生事業の推進  
例えば、ダム・河川の堆積砂を海岸・漁場整備に活用
- ④ 海底ゴミの処分システムの確立  
漁業者の力を活用

### 戎本組合長の発表

戎本組合長は自らの体験から発表を行いました。「海は漁業者だけのものではない。近年、海はきれいになったものの、漁業者の自主規制の実施に関わらず、魚が獲れず、ノリの色落ちが発生することは、栄養塩と山からの砂の供給が減少したことが影響している」とし、瀬戸内海が再生する仕組みづくりと栄養塩供給に係る早急な対策を要望し、「漁業者は国民への水産物供給と、豊かな海再生のための“海の防人”として役目を果たしていく。」と締めくくられました。

#### 《提案》

- ① 栄養塩や砂が、川から海へ流れ、藻場や干潟に富んだ瀬戸内海が再生する仕組みづくりをすること。
- ② しかしながら、今現在、漁業生産が、極めて厳しい状況に達していることから、それまでの間、下水処理施設において規制の範囲内で窒素排出量を緩和する社会的実験の実施など、早急な対策を講じること。

# 「瀬戸内海の水環境の今後のあり方」を テーマとした意見交換会

(財)兵庫県水産振興基金



戦後の高度経済成長期に藻場、干潟が埋め立てられ、工場や都市の排水等で、水質環境が悪化した瀬戸内海は、特別法の制定で水質の総量規制などにより、その水質は着実に改善されました。しかし、一方で生物多様性の低下や漁獲量の減少等が課題としてクローズアップされています。

この問題は、JF兵庫漁連 山田 隆義会長が数年前から「窒素、リンを総量規制の対象としたことが要因である」と指摘し、あらゆる機会を捉えて環境省に対し豊かな瀬戸内海への再生に向けた取組みを要請してきたところですが、ようやく昨年7月に環境大臣から中央環境審議会に「瀬戸内海の水環境保全・再生のあり方」が諮問され、同審議会の瀬戸内海部会で検討が始められました。



岡田教授の基調講演

このような動きの中で、2月7日(火)、(社)瀬戸内海環境保全協会主催による「瀬戸内海の水環境の今後のあり方について」の意見交換会が神戸市内で開催されました。

最初に、同審議会瀬戸内海部会長である放送大学 岡田 光正教授(前広島大学教授)から

瀬戸内海の水環境の変遷と今後の方向性の基調講演があり、「瀬戸内海では大阪湾を除き、環境基準の達成率は100%に近いが、一方で漁業生産量は減少している。生物の生息状況を評価するための新たな指標が必要であり、底層DO(溶存酸素濃度)と透明度の環境基準を設定しようとしている。従来は水質浄化を目標としてきたが、水生生物のためには藻場・干潟や生息地の確保を含む水環境保全の方向に進むべき」との見解が提示されました。

続いて、広島大学 山本 民次教授、水産庁瀬戸内海漁業調整事務所 小林指導課長、環境省 富坂閉鎖性海域対策室長の3氏から講演がありました。この中では、山本教授が「大阪湾を除く瀬戸内海は貧栄養状態にあるから、下水道処理場の新設は不要」などの提言があり、また富坂室長からは「水質改善中心から生物多様性や生物生産性の向上に対応する必要性」が示されました。

後半は、漁業関係者から漁業資源の宝庫をめざすことについて活発な意見表明が行われ、討論を通じて豊かな瀬戸内海の実現に向けて環境行政を展開していくとの見解が繰り返し表明されました。

兵庫の漁業者にとって望ましい方向性が示された訳ですが、まだまだ道程は遠く、今後とも行政の動向を注視する必要があると強く感じさせられました。

## 北方四島の早期返還実現に向けた決意新たに ～神戸市内で「北方領土の日」記念県民大会を開催～

JF兵庫漁連

2月7日の“北方領土の日”を前に、4日(土)、神戸市内のホテルにおいて北方領土返還運動兵庫県推進会議の主催による「北方領土の日記念県民大会」が、参加者約150人を集め開催され、本県の水産系統からも参加しました。

北方領土は太平洋戦争が終結した後に旧ソ連(ロシア)が占領し、現在も実効支配を続けています。日露の国境は1855年2月7日に定められたことから、政府は1981年に「北方領土の日」を定め、毎年この日には全国大会が開催されています。

今回の県民大会では平成23年度北方領土作文コンクール最優秀賞表彰や、元外務省欧亜局長 兵頭 長雄氏による「最近のロシア情勢と北方領土問題」と題し講演が行われ

ました。講演で兵頭氏は「(ロシアの硬化する姿勢に対し)領土問題は一度でも諦めたら絶対に返ってこない。腰を据えた息の長い対応が必要」と述べられ、参加者は返還運動推進を再確認していたようです。



山田副会長の“決意表明”

決意表明では北方領土返還運動兵庫県推進会議 山田 隆義副会長(JF兵庫漁連会長)から「歴史的にも、国際法上も日本固有の領土であり、一日も早い四島返還実現のため、なお一層粘り強い運動を推進することを、ここに決意します」と力強く読み上げられました。

近年は旧島民の高齢化が進むなか、ロシアは北方領土の島内に中国、韓国の企業を誘致し、軍事強化を図っています。竹島、尖閣諸島にも通じるこの問題は水産業に限らず、私たちは決して看過できない日本の国家の尊厳の問題です。



今年もやいます!

# スプリングキャンペーン'12

平成24年3月1日(木)~平成24年4月27日(金)

いつもご愛顧いただき ありがとうございます!  
上記期間中、新規定期貯金をお預けいただけますと  
下記の優遇金利でお預かりいたします



スーパー定期 1年

店頭金利 0.025%に

年利 0.20%を上乗せして

年 **0.225%**

(税引後 0.180%)

スーパー定期 3年

店頭金利 0.055%に

年利 0.30%を上乗せして

年 **0.355%**

(税引後 0.284%)

スーパー定期 5年

店頭金利 0.070%に

年利 0.33%を上乗せして

年 **0.400%**

(税引後 0.320%)

大口定期 1年

店頭金利 0.030%に

年利 0.20%を上乗せして

年 **0.230%**

(税引後 0.184%)

大口定期 3年

店頭金利 0.070%に

年利 0.30%を上乗せして

年 **0.370%**

(税引後 0.296%)

大口定期 5年

店頭金利 0.100%に

年利 0.33%を上乗せして

年 **0.430%**

(税引後 0.344%)

JFマリンバンクで年金受給口座を指定・予約していただくと、うれしいお知らせが!

(詳しくは次頁をご覧ください)

※表示金利の適用は、新規10万円以上預入が対象になります。

※大口定期のお預かりは1,000万円以上が対象になります。

※店頭表示金利は平成24年2月9日時点です。(変動する可能性があります)

※窓口でのお預入に限らせていただきます。(ATMでのお取扱いは対象外とさせていただきます)

※利息には20%の税金がかかります。

※金利の優遇は初回満期日までとさせていただきます。満期日以降は店頭金利での自動継続となります。

※中途解約の場合、解約日の普通貯金利率により計算した利息とともに払戻いたします。

※金利情勢により、期間中でもお取扱いを終了させていただく場合がございます。

# 年金定期貯金 (スーパー定期・1年)

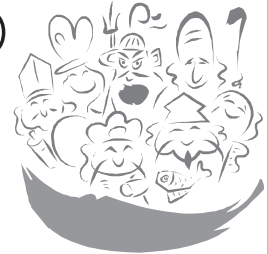
店頭金利 0.025%に

年利 **0.35%** を上乗せして

# 年 0.375%

(税引後 0.300%)

平成24年3月1日(木) ~ 平成25年2月28日(木)



ご利用いただける方	<ul style="list-style-type: none"> <li>○JFマリンバンク(兵庫信漁連)で公的年金(国民年金・厚生年金等/以下同じ)をお受取りいただいている方</li> <li>○新たにJFマリンバンク(兵庫信漁連)で公的年金をお受取り指定される方</li> <li>○公的年金のお受け取りをJFマリンバンク(兵庫信漁連)に変更される方</li> <li>○満58歳以上で、JFマリンバンク(兵庫信漁連)に公的年金のお受取りをご予約いただいた方(予約申込書をご提出いただきます)</li> </ul>
期 間	1年
預 入 金 額	お一人につき10万円以上500万円以下(累計)

※他のキャンペーンとの併用はできませんので、あらかじめご了承ください。

※店頭表示金利は平成24年2月9日時点です。(変動する可能性があります)

※窓口でのお預入に限らせていただきます。(ATMでのお取扱いは対象外とさせていただきます)

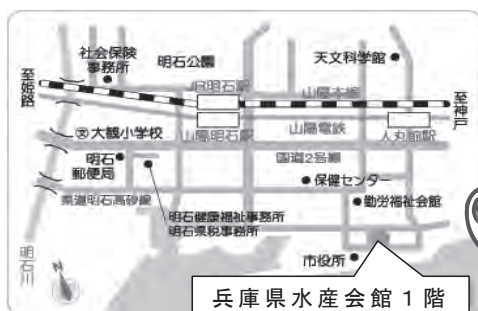
※利息には20%の税金がかかります。

※年金受給口座の指定が停止した場合、また、予約を解除された場合、金利の優遇はその後に来る満期日までといたします。

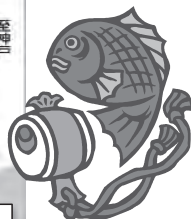
※この商品の上乗せ利率は、毎年3月1日に見直し、原則として翌年の2月28日まで同率とします。

※中途解約の場合、解約日の普通貯金利率により計算した利息とともに払戻いたします。

※金利情勢により、期間中もお取扱いを終了させていただく場合がございます。



兵庫県水産会館1階



兵庫信漁連は  
水産業の発展をサポートします

**JF**  
マリンバンク

JF兵庫信漁連 本店  
(078-919-1210)

詳しくは、窓口までお問い合わせください。

# 中国・韓国は 国内漁業の基盤強化に政策優先

## 野田首相の“高いレベルの経済協定(TPP)は日本のプラス”とは？

2月7日、日米両政府は日本の環太平洋経済連携協定(TPP)交渉参加に向け、事前協議を行った。米国は「政府の立場はまだ固まっていない」としながらも、経済界の意見として、自動車業界団体は『日本市場を「先進国で最も閉鎖的だ」と決めつけ、日本の交渉参加を認めればTPP全体の遅れを招くと反対姿勢を鮮明にしつつ、その実、全面的な市場開放を求めている』とか、米コメ連合会には『「農作物の関税撤廃に例外は存在しない」という強い意見がある』などを紹介し、日本側にやんわりと圧力をかけた？様子。第1ラウンドは腹の探り合いというところ。日本のTPP交渉参加には米国の支持取り付けが必要であり、日本政府は、自動車問題は個別交渉にして、農産物や保険等々で事前協議を深めたいようだが、国内のコンセンサスを得ないまま先を急ぐ姿勢に何か違和感がある。さらに政府は、2月23日までにTPP関係9ヶ国総てと事前協議入りすると発表しているが、どうも米国のご機嫌取り以上のものは見えてこない。

野田首相は以前「アジア太平洋地域は間違いなくこれから成長のエンジンとなり、高いレベルの経済連携は日本にとってプラスになる」と発言されたが、果たしてそうだろうか？一般論では「アジア太平洋地域」といえば、中国、韓国、フィリピン、ベトナム、インドネシア、マレーシア、台湾などを思い浮かべるが、実はこの中でTPPに参加表明しているのはベトナム、マレーシアの2国だけ。他の国々は自由貿易協定(FTA)には前向きでもTPPには何ら動きをみせていない。アジア太平洋地域の経済連携という期待とどうつながるのか？

一方、アジアの漁業大国に成長してきた中・韓両国が、自国の漁業政策強化に動きだした。中国は、食料安保政策の一環で漁業生産技術や養殖の近代化など5分野にわたる五大能力を高め、本年の漁業従事者の収入を前年比8%以上に引き上げるといふ漁業政策を打ち出した。農産物の輸出国だった中国が7年前から輸入国に転じたが、この背景には、食料の中核である大豆、トウモロコシなど穀物在庫率が、世界的な食料不足に陥った'74年の水準まで落ち込んだため、主食原料の増産と共に優良な蛋白資源である水産物の安定確保を目指すことと云うことのようなのだ。また、韓国も、米国や

中国との自由貿易協定(FTA)締結をにらみ、漁業者向けに約24兆1,000億ウォン(1兆6,100億円)規模の補償基金の創設や税優遇策の導入に踏み切ったという。報道では韓国政府は、FTAなど自由貿易が漁業分野に被害を及ぼすと想定し、被害額相当分を補償する基金を創設する。又、漁業や養殖業で燃油税の無税化や関連資材の購入の際の税負担を軽減し、これらをテコに価格競争力を高め、中国や日本市場に売り込み攻勢をかけるという狙いがあるらしい。ひるがえって我が国は、食料安保のことや自給力を高めることにどれだけ関心があるのか？政府もマスコミも国民も無関心すぎないか？

やはり野田首相なり政府は、経団連などTPP推進派の意見を丸呑みし、何が何でも経済開国をやるということか。このTPPは、'06年にシンガポール、ニュージーランド、チリ、ブルネイの4ヶ国(4P)間で発効したFTAが前身で、'10年に米国、豪州、ペルー、ベトナム、後にマレーシアが参加し9ヶ国が交渉参加している。識者の意見は様々だが、政府の対応には何れも厳しい反応だ。特に米国の参加のもとで日本の利は難しいようだ。最初の4ヶ国やペルー、ベトナムなどは経済のパイが小さいので問題は少ないだろうが、資源国オーストラリアはともかく、世界の大国アメリカがTPPの舞台に上がっている今は、野田首相の思惑は通らないのではと思う。市場論理一辺倒で攻め込まれるのが目に見えてきている。ニュージーランドでは、薬品とか乳製品等を国営とか協同組合方式で安く国内流通しており、そこに米国の大手企業が無条件で市場参入したらどうなるのか。“治療費を払えない奴は死んでも仕方がない”という論理の米国系医療企業が入ってきたら、日本が誇る国民皆保険制度はたちまち崩壊するのではないか？アジア経済の主役へ力を付けてきている中国、韓国すら参加しないTPPに、我が国政府は何を期待し、何を得ようとするのか？豪州との経済連携協定(EPA)交渉も農業問題で合意の糸口が見つからず、難航中。遺伝子組み換え作物の安全性も未確認なまま、日本に市場開放を求めるような米国相手に妥協は絶対許されない。気がつけば、ゴリ押しが得意な米国の経済属国になっているなど考えたくもない。(U/T)



## 小学生が淡路市内の ノリ生産現場を見学

(財)兵庫県水産振興基金

2月7日(火)、淡路市の巖水産(JF森・代表者 森 巖さん)に神戸市内の小学生ら約40名が社会科の学習として訪れ、ノリの生産工程を学びました。

訪れたのは神戸大学付属住吉小学校の4年生で、この日の説明をしたのは森 正安さん(JF森副組合長)。児童らは当日朝に森漁港に到着、さっそく近くの防波堤の上から摘採作業を見学し、森 正安さんから丁寧な解説を聞き、熱心にメモを取っていました。その後、港に帰港した刈取船(潜り船)を見ながら、刈り取ったばかりの生ノリを試食する一幕も。初めて食べる児童がほとんどで、その食感と風味に皆口々に「おいしい!」と感想を言っていました。

採苗用の水車も見学した後に、巖水産に到着。注意事項を聞いた後、数班に分かれて加工場の中へ。初めて見る数々の機械、音などに児童らは興味津々の様子。特にノリ乾燥機の大きさや動く様子を熱心に見学していました。

質問コーナーでは、児童らから「天候によってノリの味は変わるのか」や「淡路のりはどうして厚みがあるの

か」といった内容の質問が数多く寄せられ、最後に代表の児童が「ノリがとても手間ひまをかけて作られていることや、浮き流し式の製造方法について大変よく分かりました」と御礼を言いました。

今回の見学は、同校の担任の先生が森 正安さん、巖水産の森 巖さんをご親戚ということで実現したそうです。担任の先生によると、県内でも他の地域の産業を見る機会は少なく、特にノリ生産現場を直接見る機会は滅多に無いとのことなので、児童らには貴重な学習の機会となったようです。



初めて見る“潜り船”



熱心にメモをとる姿が印象的でした



加工場内の機械の多さに驚いたようです

## 淡路島内在住の漁業士会員による座談会を開催

県洲本農林水産振興事務所

2月3日(金)、洲本合同庁舎別館において、今年度の淡路島内在住漁業士会員による座談会が開催されました。冒頭、主催者挨拶で兵庫県漁業士会 魚住 幸市会長が、本会や普及活動の意義について語られ、続いて洲本農林水産振興事務所 新岡 史朗所長から「淡路独自の夢推進費や食ブランド推進により淡路の水産を盛り上げていきたい」との挨拶がありました。同会は島内漁業士会員及びOBの勉強会、行政を含めた意見交換を目的としており、今年は兵庫県北部農業技術センター 岡田 佑太研究員により「魚を美味しく保つには～活け締め、血抜き、保冷の効果～」と題して講義が行われました。

出席した漁業士らからは、『毎年出席しているが、普段聞けない話を講義してもらえると』『農林の職員ともざくばらんに話ができるので貴重な場だと思う』『洲本は

水産では珍しい女性職員もいるので新しい風を吹き込んでくれるのではないかと』『もっといろいろな人に呼び掛けてもらって、漁師の方も参加者が増えていけばと思う』などの感想を寄せて頂きました。

来年度はより多くの方に参加いただけるよう開催時期や内容を見直すとともに、漁業士会員及びOBに限定せず、青年部をはじめ広く案内させて頂く予定ですのでよろしくお願い致します。



## 「親しまれる“拓水”」を目指して ～拓水編集会議を開催～

(財)兵庫県水産振興基金

昭和31年に創刊し現在まで毎月発行されてきました“拓水”は今月号で665号となります。

この間、様々な内容の見直し、充実が図られ、平成14年からは系統団体(当時11団体)による拓水編集会議を設置し、担当者間で意見交換を行うとともに、読者アンケートなども実施してきました。現在は平成20年に行われた編集会議の方針を基に編集をしていますが、この度、久しぶりに県・各団体の“編集委員”に集まって頂き、内容の見直しや新たな課題への取り組みについて、2月22日(水)に話し合いました。

これからも定期的に会議を行い、皆様に「親しまれる“拓水”」を目指していきます。

なお、編集部では読書の皆様からの投稿や写真提供をお待ちしております。

### “兵庫の漁業人のための情報誌「拓水」は今年で創刊56年を迎えます”

これからもご愛読をお願いします。



活発な意見交換がありました!

## 「世界に冠たる神戸ビーフ 海外輸出第1号 出発式」を開催

神戸肉流通推進協議会（事務局：全農兵庫県本部 畜産部）は、昨年10月に加古川市の「加古川食肉センター」が輸出の認定を受け、海外進出への道が開かれたことから、1月29日（日）に「神戸ビーフ海外輸出第1号」の出発式を同センターで開催し、海外輸出第1号の出荷先であるマカオに向けて出荷しました。

式典には約100人の関係者が出席し、同協議会 喜多 太見男会長より「神戸ビーフを名実ともに世界一の牛肉にするため、海外に販路を拡大していきたい」と挨拶がありました。また、今回の“神戸ビーフ”を取り扱う香港輸入卸業者「和牛達人」吉田 綾子社長とマカオの食品卸売会社「新合記食品」<sup>チョン</sup> 洪 社長も急きょ駆けつけ、喜多会長、平井 力副会長、兵庫県、加古川市、同センター関係者と一緒にテープカットを行い、初出荷される“神戸ビーフ”を積んだトラックが万歳三唱と拍手の中、出発しました。



左から 平井副会長、喜多会長、<sup>チョン</sup>洪 社長

## 「組合員参加メニューコンテスト」を実施

生活協同組合連合会大学生協阪神事業連合では、「組合員に食堂利用の楽しさを伝える」、「組合員が食堂のメニューにかかわることで店舗との交流を深め、生協との関係づくりに繋げる」、「関係づくりが出来ることで店舗の活性化に繋げる」ことを目的に、組合員参加によるメニューコンテストを実施しました。

特に組合員に人気のある『丼メニュー』に限定し、組合員によるメニュー提案とレシピをもとに、店舗で試作を行い商品化しました。また各会員で試食会を実施し、採点のうえ“ナンバーワンメニュー”を決定。さらにそのメニューを事業連合で集約を行い、神戸地区会員は大阪地区大学にて、大阪地区会員は神戸地区大学にて試食会を行い、各地区上位5メニューを選考。10月から1週間ごとに全会員店舗食堂にて出食を行いました。その中で最も出食率(客数対比)の高かったメニューを「最優秀グランプリ」として表彰しました。

今回のコンテストでは、各会員店長と組合員学生との交流ができ、応募も多く、3月から12月までの長い期間、告知ポスターや結果告知で相乗効果があり、多くの組合員に食堂に足を運んでいただきました。今までの企画やフェアでは、最初に出食率が上がるものの、だんだんと下がる傾向でしたが、今回は日を追うごとに食も増え、阪神全体で取り組めたと感じています。今後も組合員と一緒に、いろいろな企画を組みたいと思います。



# 旬に想う

写真と文  
遊方子

## 恐竜時代へタイムスリップ

◆恐竜絶滅。生命史でこれほど関心を集めるテーマはない。一部は鳥類へ進化し現代に生き続けているという説もあるが、三畳紀・ジュラ紀・白亜紀と、生態系の頂点に君臨した恐竜が、白亜紀の終りに突然に姿を消す。それは大陸の分裂・気候の変動など色んな説があったが、2010年3月、科学雑誌『サイエンス』が巨大隕石衝突による絶滅だと断定した。6550万年前、米国ユタタン半島付近に直径10キロの巨大な隕石が激突、大異変を起こした。海底の岩盤は数千度の岩石蒸気となり気化して巻き上がり、熱波が火球となって地を走り高熱の灼熱世界となり、瞬時に生物の命を奪う。恐竜に相応しく劇的である。

◆恐竜と怪獣の違いは何か。そんな質問に中学生の回答「怪獣には背中にファスナーがある」という。子供らの冷静な観察眼に感心した。映画『ジュラシックパーク』でティラノサウルスが鋭い歯を剥き出し、ジープを追い掛ける場面では恐怖に震えたが、恐竜は名前通りに怖い存在である。恐竜は約2億3000万年前の三畳紀に登場し、ジュラ紀から白亜紀にかけて地球上を闊歩した。生息したのは1億5000万年程と考えられているが、この長期間の繁栄に比べ、今までに発見した化石は少なく、未発見が多量に埋ま

っている。近年、中国でジュラ紀後期～白亜紀前期と見られる化石が出て、鳥の先祖と考えられ「孔子鳥」と名付けた。骨格は始祖鳥よりも鳥に近く、恐竜起源説を有力づけている。

◆平成18年、丹波の川代溪谷で化石調査をしていた男性2人が、折り重なる篠山層群の表面へ突き出した灰色の石を発見、それが恐竜の肋骨の化石と判り「丹波竜」と命名された。第1次～第3次の発掘で、尾椎や肋骨などが次々と見つかり大きな恐竜の存在を想わせる。多くの人の協力で、約5000点の化石が集められた。今も第6次発掘がなされており、新たな発見へ期待がかかる。これまで発掘場所は中国や米国などの広い荒野ばかりだったが、狭い国土の日本で巨大恐竜が掘り出されれば、これは感激以上のものになるだろうと思う。

◆NHKの科学番組で「恐竜VSほ乳類」続編が放送され、前作以上に驚嘆させられた。ほ乳類は鼠のように小さく、卵を産み恐竜に脅えて暮したようだ。やがて胎盤による繁殖法へと進化、ほ乳類は生き残りサル形へ発展、人間が生まれる。この辺りCG合成の映像が素晴らしい。土産に貰ったが、岩盤を模したチョコレート割ると白チョコ製の恐竜化石が出てくる。ティラノサウルスなど4種あって、発掘の夢をチョコで再現した実に楽しいものだった。



灯台と海峡大橋

# 大輪田塾だより

## 魚食普及活動の現状と課題

大輪田塾2月講座「魚食普及の現状と課題について」が21日(火)に開催されました。

講師には水産庁増殖推進部 上田 勝彦 情報技術企画官を迎え、約3時間にわたり“魚食普及”について講義がありました。現在、全国の漁協青年部・女性部等の活動支援を行いつつ、魚食普及の活動に腐心されている上田氏は、様々な場で活動している内容を紹介し、「魚食はそもそも当たり前時代の時代があった。よって魚食普及ではなく“魚食復興”である。」と締めくくられました。熱のこもった講義に、塾生は熱心に聴講。講義終了後には塾生



上田氏による講義

のみならず、傍聴席からも様々な質問がなされ、熱心にメモを取る姿も見受けられました。



## 表紙の言葉

### イカナゴ漁に沸く明石海峡周辺

瀬戸内海に春の訪れを告げる“イカナゴ漁”

今年はイカナゴの成育状況も良く、くぎ煮に適したサイズで解禁を迎えることが出来ました。

写真は、明石市役所裏の海岸から撮影したのですが、操業する船の間を縫うように大型船が航行していました。1日に約700隻以上が行きかい、国内で最も交通量の多い航路として知られている明石海峡航路は、イカナゴ漁期時にはさらに過密な状況となります。海上安全への啓発も系統団体を挙げて行っており、特にこの漁期前には、漁業者が海技大学にて大型船の操船などについて講習も受けました。今漁期の操業安全と豊漁を祈ります。

